

～第31回 PaFaCC 勉強会に参加された方の感想・ご意見～

平成30年9月8日（土）の勉強会には33名の方が参加され、紹介された事例をもとに意見交換が行われました。寄せられた貴重な感想、ご意見の一部をご紹介します。



加齢に伴う変化や家族の変化に対応していくという、小児看護のさらにその先を考える良い機会になりました。また、ご家族が長年大切にしていることを一緒に大切にしている姿勢が分かり、生活を支えるという訪問看護のあたたかさを感じました。

医療者は時に、医療者の思いが先行し、もっと社会資源を使う「べき」、医療ケアを導入「すべき」、という様な伝え方をしてしまうことがあると思います。その方やご家族がどのように過ごしてきたか、どのような思いを抱えているかを共有していくことが“寄り添う”に繋がっていくのだと改めて考える機会になりました。

訪問看護はケアを必要とされるお子さまとご家族の、生活・人生の中に関わっていくものなのだと改めて感じました。これからは、病院で働く中でも、その人とご家族の人生の一場面に関わらせてもらっていること、その方たちのそれまでとその後を常に意識しながら看護していきたいと思いました。

年齢を重ねていく方を長期に渡り支援していくことの難しさと、ご家族の思いに寄り添う大切さを改めて考えることができました。長い生活で培われた様々な思いは、簡単に理解できるものばかりではないですが、様々な思いを大切に受けとめ、日々共に考え、ご本人とご家族の生活を少しでもより良くしていきたいです。

多くの方のご参加とご意見、ご感想をいただき、感謝申し上げます。

今後の勉強会の企画・運営に役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。

PaFaCC 勉強会世話人：花井文・古屋萌